

製品名: PRK1 (リン酸化 Thr774) /PRK2 (リン酸化 Thr816) ウサギポリクローナル抗体
カタログ番号: APRab05308

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	103kDa

抗原情報

遺伝子名	Serine/threonine-protein kinase N1 (EC 2.7.11.13) (Protease-activated kinase 1) (PAK-1)
別名	(Protein kinase C-like 1) (Protein kinase C-like PKN) (Protein kinase PKN-alpha) (Protein-kinase C-related kinase 1) (Serine-threonine protein kinase N)
遺伝子 ID	5585.0
SwissProt ID	Q16512
免疫原	ヒト PRK1 (Thr774) および PRK2 (Thr816) の周囲に合成されたリン酸化ペプチド

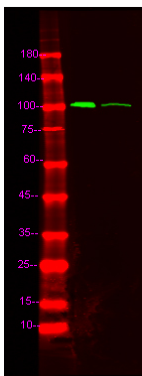
背景

プロテインキナーゼ N1(PKN1) Homo sapiens この遺伝子によってコードされるタンパク質は、プロテインキナーゼ Cスーパーファミリーに属します。このキナーゼは、低分子 G タンパク質の Rho ファミリーによって活性化され、Rho 依存性シグナル伝達経路を媒介する可能性があります。このキナーゼは、リン脂質および限定的なタンパク質分解によって活性化されます。3-ホスホイノシチド依存性プロテインキナーゼ-1 (PDPK1/PDK1) はこのキナーゼをリン酸化することが報告されており、アクチン細胞骨格へのインスリンシグナルを媒介する可能性があります。アポトーシスの際にカスパーゼ-3 または関連プロテアーゼによってこのキナーゼがタンパク質分解活性化されることは、アポトーシスに関連するシグナル伝達におけるこのキナーゼの役割を示唆しています。異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが観察されています。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。 ,ドメイン: C1 ドメインはジアシルグリセロール (DAG) に結合しません。 ,酵素調節: 脂質、特にカルジオリピンによって活性化され、他の酸性リン脂質によっても程度は低くなります。完全に活性化するには、2つの特定の部位、Thr-774 (キナーゼドメインの活性化ループ) と Ser-916 (ターンモチーフ) をリン酸化する必要があります。 ,機能: リボソームタンパク質 S6 をリン酸化できます。 GTPase Rho 依存性細胞内シグナル伝達を媒介します。 ,PTM: トリプシンによる限定的なタンパク質分解によって活性化されます。 ,PTM: セリンが自己リン酸化されます。 ,類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。 ,類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。 AGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。 PKC サブファミリー。 ,類似性: AGC キナーゼ C 末端ドメインを 1 つ含む。 ,類似性: C2 ドメインを 1 つ含む。 ,類似性: タンパク質キナーゼドメインを 1 つ含む。 ,類似性: REM (Hr1) リピートを 3 つ含む。 ,サブユニット: ZA20D3 と相互作用する (類似性による)。 RhoA および Rac1 と相互作用する。 ,組織特異性: 普遍的に存在。心臓、脳、胎盤、肺、骨格筋、腎臓、脾臓に発現する。 ,

研究分野

シグナル伝達

画像データ



LPS 処理または未処理の HeLa 細胞を、一次抗体を 1:1000 希釈でウェスタンブロット分析した。二次抗体は 1:10000 希釈で行った。